

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：32511

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04880

研究課題名（和文）開放制における教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発に係る研究

研究課題名（英文）Research on Curriculum Development that Connects Undergraduate Teacher-Training Course in the Open System and Graduate Schools of Practitioners in Education

研究代表者

宮下 治（MIYASHITA, Osamu）

帝京平成大学・現代ライフ学部・教授

研究者番号：30453955

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発を行うことを目的としている。そのため、開放制における学部教職課程と教職大学院のそれぞれのカリキュラムの実態について検討し、課題を見出した。これらの結果を踏まえ、開放制における学部教職課程のカリキュラムと教職大学院カリキュラムの改善の方向性を示した。併せて、開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラムとしてまとめ、提案を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学の教員養成においては、教科や教職に関する高度な専門的知識、並びに新たな学びを展開できる実践的指導力を育成していくことが重要である。今後も一般学部の出身者が、特に、中学校・高等学校の教員として多く採用されていくことを考慮すると、学部卒業後に教職大学院に進学し、高度な教育的専門性と実践的指導力を身に付けていくことが重要であると考えられる。本研究結果である開放制における教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラムや指導システムは、広く教職課程をもつ多くの一般学部と教職大学院に波及し、活用されていくことが大いに期待できる。こうした点が研究成果の学術的意義及び社会的意義と言える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop a curriculum that connects undergraduate teacher-training course in the open system and graduate schools of practitioners in education. Therefore, I examined the actual situation of each curriculum of undergraduate teacher-training course in the open system and graduate schools of practitioners in education, and found some issues.

Based on these results, the direction of improving the undergraduate teacher-training course and graduate schools of practitioners in education curriculum was shown. At the same time, the curriculum connecting the undergraduate teacher-training course and graduate schools of practitioners in education was summarized and proposed.

研究分野：学校教育学

キーワード：開放制 教員養成 教職課程 教職大学院 教員採用 スクールリーダー 実践的指導力 カリキュラム

1 . 研究開始当初の背景

「平成 29 年度公立学校教員採用選考試験の実施状況について」(文部科学省 , 2018) , 「平成 30 年度公立学校教員採用選考試験の実施状況について」(文部科学省 , 2019) には , 公立中学校・高等学校の教員採用者の国立教員養成大学・学部出身者 , 教員養成以外の一般大学・一般学部出身者 , 短期大学・大学院等出身者の比率が示されている . 中学校や高等学校に採用される多くの教員が , 一般大学・一般学部の教職課程で教員免許状を取得する者 , つまり , 「開放制における学部教職課程」で取得する者が採用者全体の約 65% と多い実態がある . また , 「教職課程再課程認定等に関する説明会配布資料」(文部科学省 , 2017) によると , 2015 年 5 月現在 , 大学 606 校などに教職課程が設置されている . 学部段階の教員養成が中心となっていることを踏まえば , まずは , 既存の教職課程の改善・充実を図り , 一般学部の卒業段階で教員として必要な資質能力を確実に身に付けさせ , 学校現場に送り出すことが重要であると考えられる .

教員養成系の学部・学科ではない一般学部の出身者が , 小学校・中学校・高等学校の教員として約 4 倍多く採用されている (文部科学省 , 2016) 現実を考慮すると , 一般学部卒業者は引き続き教職大学院に進学し , 高度な専門性と実践的指導力及びスクールリーダーとしての資質を身に付けていくことが重要である . その一つの対策として , 開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラムを開発していくことが重要である .

2 . 研究の目的

(1) **研究目的の概要** : 本研究は「開放制における教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発に係る研究」である . 教員養成系の学部・学科ではない一般学部の出身者が , 小・中学校・高等学校の教員として約 4 倍も多く採用されている現実を考慮すると , 一般学部卒業者は引き続き教職大学院に進学し , 高度な専門性と実践的指導力 , そして , スクールリーダーとしての資質を身に付けていくことが重要である . その対策として , 「開放制における教員養成と教職大学院との接続カリキュラム」やその指導システムを開発していくことも重要となり , そこに本研究の独自の主張点がある .

(2) **本研究で明らかにしようとしたこと** : 本研究においては , 『開放制における教員養成』を行う一般学部と教職大学院とを接続させるカリキュラムや指導システムを開発していくことが重要であり , その効果を検証しようとした . そのために , 以下のことを行った . 「理論と実践との融合・往還」に関する考察について , 我国の先行研究や事例調査 , 及び海外の教員養成カリキュラム等を踏まえて輪郭を描き , これまでの我々の実践事例を通してのカリキュラムの目標・内容・方法・評価 , 及び教育効果への影響過程の仮説モデルを構築する . で開発された学生の学びに適切なモデルカリキュラムの実施 , 及び指導システムを構築し , その教育的効果に関するデータを収集する . で収集した質的データをナラティブ・KJ 法 , 及びテキストマイニング等で分析し , 量的データはパス解析等を実施して , その効果を検証する . また , 結果を反映してモデルカリキュラムの改善を図り , その成果を学会や教職大学院協会等で発信する .

3 . 研究の方法

(1) 他大学の教職大学院 , 及び学部・教員養成カリキュラムの教育効果の検証

これまで愛知教育大学教職大学院で取り組んできた「理論と実践の融合」の概要である .
まずは自尊感情の自覚 (自己分析) , 次に学習意欲の向上 (有益性・実用性の実感) , キャリ

アビジョンの形成(将来への見通し),最終的には教育貢献意識(理論的専門性の確立)を育成するカリキュラム過程が,これに該当する.本研究では,今一度,これを再検討する.

他大学の事例調査,及び海外等を踏まえて,モデルカリキュラムのための基礎データを収集する.その方法論は,量的には宮下・倉本で協働し,質的には分担とする.具体的には,半構造化インタビューによりナラティブ・ディスコース,及びテキストマイニング等で分析し,量的データはパス解析等を実施してその効果を検証する.

(2) 実践上の課題抽出とモデルカリキュラムの開発

(1)で得られたデータを解析し課題を抽出する.その方法論は,収集した質的データをナラティブ・KJ法,及びテキストマイニング等で分析し,量的データはパス解析等を実施してその効果を検証する.

その際に,「開放性/一般学部のニーズ」「教職大学院のニーズ」に鑑み,国内外の理論や先進事例を参考にして,モデルカリキュラム開発をする.また,その支援サポートシステム(例えば協力校の開発・TTシステムの高度開発等)の構築を図る.

得られた知見を国内外の関係学会や教職大学院協会で発表する.さらに,FDや国内シンポジウムを開催し,大学教員,県・市教育委員会,学校関係者,及び関係学生も参加し,モデルカリキュラム改善の方向性を再検討する.

(3) モデルカリキュラムの検証・評価

平成29年度に開発したモデルカリキュラム(Plan)を実施し(Do),教師に対する教育効果を検証・評価する(Check).特にその際の留意点は,平成29年度に開発したカリキュラム要素に重点をおくが,一方では,国内外の他大学の情報を収集し,我々が開発・推進してきた実践との相違点との観点を明らかにする.

研究成果の発信と転用の視点から,得られた知見をまとめ,教育学(Curriculum & Instruction, Action Research等),及び国内外の学会に発表し,論文投稿をする.さらに,関連大学院・学部・学科に研究成果報告書を送付し,各大学・大学院のNeedsに合致するカリキュラム・実践の浸透を図り(Action),「理論と実践を融合・往還」する開放制の一般学部と教職大学院教育の接続を模索する.

4. 研究成果

(1) 関東地区にある私立A大学で,中学・高校の教員免許状取得を目指す教職課程履修学生を対象に,教職課程に対する意識に関する調査を質問紙法により実施した.また,中部地区にある国立B大学教職大学院の学部直進生を対象に,教職大学院での学びに対する意識に関する調査を質問紙法により実施した.その結果,教職課程を履修している学部生が,教育実習に向けて,授業づくりや生徒理解に関することに取り組んでいきたいことが分かった.しかし,実際の教職課程の授業では,講義型の授業が多いなど課題もあることも分かった.また,教職大学院生は,授業づくり学級づくりに関して力を入れていることなどが分かった.さらに,「学部時代の学びとの系統性に欠けている」,「学部(教職課程)の学びを生かした授業が教職大学院にはないと感じる」など,一般学部の教職課程と教職大学院の学びに系統性に欠けていると感じている実態も分かった(宮下・倉本,2019)¹⁾.

(2) 宮下と倉本で,学部における教員養成,修士課程・博士課程(EdD)における教員養成の実態を調べるために,アメリカのTeachers College Columbia University(New York)とFredonia State University of New York(New York)に訪問調査を実施した.調査を通して教員養成の実態と教育実践に基づいた研究の実態などについて知見を得ることができた.

- (3) 我が国の開放制における教員養成と教職大学院との接続カリキュラムの接続に関するモデルカリキュラムについて検討を行った。
- (4) 令和2年度までに得られたデータを解析し課題を抽出した。その方法論は、収集した質的データをナラティブ・KJ法、及びテキストマイニング等で分析し、量的データはパス解析等を実施してその効果を検証した。その際に、「開放制と一般学部のニーズ」「教職大学院のニーズ」に鑑み、国内外の理論や先進事例を参考にして、モデルカリキュラム開発をし、修正を加えた。また、その支援サポートシステム（例えば協力校の開発・TTシステムの高度開発等）の構築を図った。得られた知見を国内外の関係学会で発表した。
- (5) 開発したモデルカリキュラム(Plan)を実施し(Do)、教師に対する教育効果を検証・評価した(Check)。特にその際の留意点は、令和元年度に開発したカリキュラム要素に重点をおくが、一方では、国内外の他大学の情報を収集し、我々が開発・推進してきた実践との相違点との観点を明らかにした。また、本研究の成果報告書を作成し、全国の教職大学院や開放性の一般学部を有する多くの大学に送付し、「理論と実践を融合・往還」する開放制の一般学部と教職大学院教育の接続を図る上での研究成果について意見をもらうことができた。
- (6) 開放制における学部教職課程カリキュラムの改善の方向性と教職大学院カリキュラムの改善の方向性を踏まえて、開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラムとしてまとめたものが次の図である。また、開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させながら、プロ教師としての確かな実践的指導力の向上を図っていくために、以下のことを提案した。

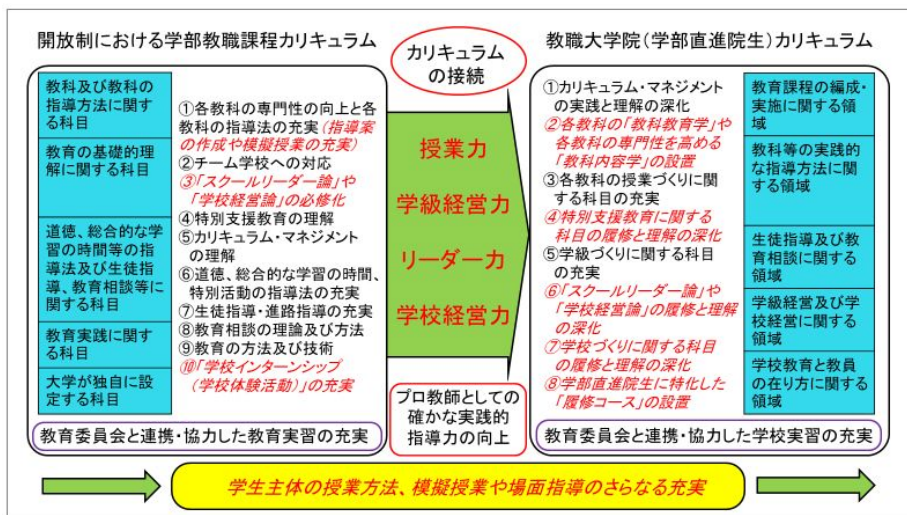


図 開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラム(宮下, 2020より引用)²⁾

授業力・学級経営力の向上を図るために

教師としての授業力を向上させていくためには、学部の「各教科の指導法」や、教職大学院の「各教科の授業づくりに関する科目」では、指導案の作成や模擬授業・場面指導の実施、並びに振り返りを十分に行うなど充実をさせていくことが重要である。開放制における学部では専門科目の学びが多いため、専門性を向上させていくことが可能である。一方、教職大学院においては、各教科の「教科教育学」や各教科の専門性を高める「教科内容学」の設置が十分ではない。各教職大学院ではこれらの科目の設置をしていくことが急務と考える。また、授業の改善を図っていくためにも、授業分析の手法の一つの方法としてカリキュラム・マネジメントを取り入れていくことも有効であると考えられる。

教師としての学級経営力や生徒理解の力を向上させていくためには、学部段階において、道

徳，総合的な学習の時間，特別活動の指導法を充実させ，生徒指導・進路指導法，教育相談の理論と方法，さらには特別支援教育の理解を従来以上に充実させていくことが重要である．なお，こうした理解は，「介護等体験」，「学校インターンシップ（学校体験活動）」，「教育実習」の中で深化させていくことが重要である．教職大学院（学部直進院生）においては，学級づくりに関する科目の内容をさらに充実させていくとともに，特別支援教育に関する科目を履修させ，理解の深化を図っていくことが重要である．

スクールリーダー力・学校経営力の向上を図るために

学部での教員養成の段階から徐々にスクールリーダーの必要性和業務内容，リーダーとしての職の魅力などを学んでいくことが重要である．開放制における学部教職課程においては，例えば，「スクールリーダー論」や「学校経営論」などの科目を学部の3年次に1科目，4年次に1科目程度を教職課程の必修科目として位置付けていくことが必要である．スクールリーダー力・学校経営力を向上させていくことは，教職大学院（学部直進院生）にとっても重要なことである．学校経営などに関する領域の科目は現職教員院生のために設けられていることも多くあるが，学部直進院生にも「スクールリーダー論」や「学校経営論」などの科目を必修科目に位置づけ，リーダー力や学校経営力の基盤を身に付けさせていくことが重要である．

プロ教師としての確かな実践的指導力の向上を図るために

教育職員免許法の改正（平成28年）及び同法施行規則の改正（平成29年）により，教育実習の単位の一部に「学校インターンシップ（学校体験活動）」の単位を含むことが可能となった．開放制における学部教職課程においては，大学所在地などの教育委員会と連携・協力を図り，積極的に「学校インターンシップ」をカリキュラムに取り入れ，学校現場における生徒の様子，授業づくりの方法，学級経営・生徒理解の方法，学級担任としての動き方，主任教員の動き方など，学校全体の姿を見て学ぶ環境をカリキュラムに整えていくことが重要である．

また，教職大学院においても，授業づくりや学級経営の方法だけを見て学ぶのではなく，学校における生徒の様子，授業づくりの方法，学級経営・生徒理解の方法，学級担任としての動き方，主任教員の動き方，さらには主幹教員や教頭先生の動き方など，スクールリーダーの動きもしっかりと見て学び，学部直進院生自身が自分ならばどのように動くかと常に意識して実習をしていくことが必要である．なお，教職大学院にとっては，在籍中に学校現場における教育研究の力を身に付けていくことが必要である．学校実習をポートフォリオとしてのみまとめるのではなく，研究課題と創造的な方法によって学校教育研究をまとめていく場として用いていくこともプロ教師としての確かな実践的指導力を向上させる上では不可欠なものとする．

本研究は，開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発を行うことを目的に，学部教職課程と教職大学院のそれぞれのカリキュラムの実態について検討し，課題を見出した．この結果を踏まえ，開放制における学部教職課程と教職大学院カリキュラムの改善の方向性を示した．併せて，開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラムとしてまとめ，提言を行った．

文献

- 1) 宮下 治，倉本哲男（2019）：教職大学院のカリキュラムに関する実態調査研究 - 入学者の現状を踏まえて - ，順天堂大学「順天堂グローバル教養論集」，第4巻，pp.1 - 11．
- 2) 宮下 治（2020）：開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラムの提案，帝京平成大学「帝京平成大学紀要」，第31巻，pp.119 - 129．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 宮下 治	4. 巻 43号
2. 論文標題 開放制教職課程履修学生の教職課程に対する意識調査研究 - 2016, 2018, 2020年の調査結果から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学「教職課程年報」	6. 最初と最後の頁 pp.55-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮下 治	4. 巻 第32巻
2. 論文標題 教育委員会指導主事の研修プログラム開発のための基礎研究 - 指導主事の職務に必要な資質・能力を探る -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京平成大学「帝京平成大学紀要」	6. 最初と最後の頁 pp.197-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮下 治・柿沼宏充	4. 巻 第18巻
2. 論文標題 客観的根拠に基づき多様な視点から考える科学的思考力を育む授業実践研究 - 小学校理科「物の溶け方」単元を例として -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床教科教育学会誌「臨床教科教育研究」	6. 最初と最後の頁 pp.59-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮下 治・倉本哲男	4. 巻 第4巻
2. 論文標題 教職大学院のカリキュラムに関する実態調査研究 - 入学者の現状を踏まえて -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 順天堂大学「順天堂グローバル教養論集」	6. 最初と最後の頁 pp.1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治	4. 巻 第31巻
2. 論文標題 開放制における学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラムの提案	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京平成大学「帝京平成大学紀要」	6. 最初と最後の頁 pp.119-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治	4. 巻 2020年春号
2. 論文標題 「学ぶ意義と生活との関連性」を実感できる中学校理科授業の推進に向けて - 中学校学習指導要領(平成29年告示)「理科」改訂のポイントを踏まえて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育出版「中学理科」	6. 最初と最後の頁 pp.8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tetsuo Kuramoto	4. 巻 Issue 2
2. 論文標題 Lens from Lesson Study and Systematic Classroom Observation Research: -From the Perspectives of SECI Model and KJ method-Pedagogical Dialogue	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal AEO NIS Center of Excellence with University of Cambridge in Kazakhstan	6. 最初と最後の頁 pp.23-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉本哲男	4. 巻 30号
2. 論文標題 Service-Learningにおける市民教育論(Citizenship Education)に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アメリカ教育学会『アメリカ教育研究』	6. 最初と最後の頁 pp.24-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西淵茂男・倉本哲男・磯部征尊	4. 巻 2019年度
2. 論文標題 「学び続ける教員像」の確立に向けた研修体制・研修プログラムの開発 - 教育委員会・大学の連携強化による現職教員の再教育拠点づくり -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知教育大学・重点支援/概算プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 pp.1-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治	4. 巻 第3巻
2. 論文標題 教育委員会における教員養成カリキュラムへの関わりについての一考察 - 東京都を例として -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 順天堂大学「順天堂グローバル教養論集」	6. 最初と最後の頁 pp.33 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野田榮, 宮下 治	4. 巻 第3巻
2. 論文標題 大学英語教職課程の中での英語のインターアクションル・スキルの向上への提言	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 順天堂大学「順天堂グローバル教養論集」	6. 最初と最後の頁 pp.45 - 60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治	4. 巻 第40号
2. 論文標題 開放制の教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発を目指した学生の意識調査研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 明治大学「教職課程年報」	6. 最初と最後の頁 pp.61 - 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治, 柿沼宏充	4. 巻 第18巻, 第2号
2. 論文標題 客観的根拠に基づき多様な視点から考える科学的思考力を育む授業実践研究 - 小学校理科「物の溶け方」 単元を例として -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床教科教育学会誌「臨床教科教育研究」	6. 最初と最後の頁 pp.59 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tetsuo Kuramoto	4. 巻 Issue 1 (27)
2. 論文標題 Improving the quality of teachers through Lesson Study and Curriculum Management in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pedagogical Dialogue Journal AEO NIS Center of Excellence with University of Cambridge in Kazakhstan	6. 最初と最後の頁 pp.24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉本哲男	4. 巻 第29号
2. 論文標題 アメリカにおけるEd.D.カリキュラムの研究 - University of HawaiiのEd.D.指導論を事例に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アメリカ教育学会「アメリカ教育研究」	6. 最初と最後の頁 pp.29-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉本哲男	4. 巻 第4巻
2. 論文標題 授業改善と教育経営研究 - レッスンスタディーとナレッジリーダーシップの視点から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育経営学会「講座現代の教育経営」	6. 最初と最後の頁 pp.117-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治, 森山有里加	4. 巻 第17巻
2. 論文標題 「PDCAサイクル学習シート」活用による授業実践研究 - 中学校理科「運動とエネルギー」単元を例として -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床教科教育学会誌「臨床教科教育研究」	6. 最初と最後の頁 pp.83 - 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治, 有賀友美	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングによる中学校英語授業の実践研究 - 「学びに向かう力」を育む「話し合い活動」の工夫 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 順天堂大学「順天堂グローバル教養論集」	6. 最初と最後の頁 pp.34 - 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野田榮, 宮下 治, 吉野康子	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 ニュージーランドの教職課程の訪問調査報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 順天堂大学「順天堂グローバル教養論集」	6. 最初と最後の頁 pp.58 - 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治	4. 巻 第3巻
2. 論文標題 教育委員会における教員養成カリキュラムへの関わりについての一考察 - 東京都を例として -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 順天堂大学「順天堂グローバル教養論集」	6. 最初と最後の頁 pp.33 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治	4. 巻 第40号
2. 論文標題 開放制の教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発を目指した学生の意識調査研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 明治大学「教職課程年報」	6. 最初と最後の頁 pp.61 - 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉本哲男	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 Transformative Curriculum Leadership「変革的カリキュラムリーダーシップ」からみるカリキュラムマネジメントに関する一考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要	6. 最初と最後の頁 pp.61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉本哲男	4. 巻 第59巻(5)
2. 論文標題 学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 「学校運営」全国公立学校教頭会 編	6. 最初と最後の頁 pp.14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下 治	4. 巻 第33巻
2. 論文標題 教育委員会指導主事の資質・能力の向上を図る研修の現状と課題 - 東京都教育委員会を例として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京平成大学「帝京平成大学紀要」	6. 最初と最後の頁 pp.141 - 152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件（うち招待講演 13件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 Tetsuo KURAMOTO
2. 発表標題 Knowledge Management and Lesson Study in Japan :From Curriculum Management Perspective
3. 学会等名 Symposium World Association for the Lesson Studies 2020（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tetsuo KURAMOTO
2. 発表標題 Lesson Study in Initial Teacher Training in Japan : From Curriculum Management Perspective
3. 学会等名 Symposium World Association for the Lesson Studies 2020（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮下 治・倉本哲男
2. 発表標題 開放制における教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラムの一提案
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第30回全国大会（京都大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮下 治
2. 発表標題 学部教職課程と教職大学院とを接続させるカリキュラムの検討
3. 学会等名 臨床教科教育学会2019年度（第18回）全国大会（信州大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有賀友美・宮下 治
2. 発表標題 小中高接続を意識した自律した学習者育成を目指した中学校英語授業研究 - 「話し合い活動」による継続的な指導 -
3. 学会等名 臨床教科教育学会2019年度（第18回）全国大会（信州大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古谷美紅里・岩崎 藍・宮下 治
2. 発表標題 中学校英語教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
3. 学会等名 臨床教科教育学会2019年度（第18回）全国大会（信州大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Lens from Lesson Study and Systematic Classroom Observation Research: Lessons learnt from Japan, China, and Hong Kong, Singapore
3. 学会等名 World Education Research Association（Tokyo）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Lesson study in initial training: an international perspective; Netherlands, Ireland, Norway, Japan
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies（Amsterdam）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Structure and Agency: Comparing Lesson Study Practices in Asian Contexts, Hong Kong, Japan, Singapore
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (Amsterdam) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Knowledge Management and Lesson Study in Japan From Curriculum Management Perspective
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (Webinar) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Lesson Study and Curriculum Management in Japan
3. 学会等名 National Institute of Education & Ministry of Education in Cambodia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮下 治, 倉本哲男
2. 発表標題 教職大学院カリキュラムの現状と課題 - アンケート調査結果をもとに -
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第29回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 倉本哲男, 宮下 治, 磯部征尊
2. 発表標題 教職大学院プログラムのカリキュラムマネジメント
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第29回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮下 治
2. 発表標題 全国教職大学院を対象としたカリキュラムの実態調査研究
3. 学会等名 臨床教科教育学会2018年度(第17回)全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮下 治, 有賀友美
2. 発表標題 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた英語授業改善に関する研究 「話し合い活動」による「話すこと」を高める継続的な指導
3. 学会等名 臨床教科教育学会2018年度(第17回)全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮下 治, 柿沼宏充
2. 発表標題 キーワードを用いた授業設計をすることが科学的な見方・考え方の活用に及ぼす効果 小学校理科第5学年「流れる水のはたらき」を事例に
3. 学会等名 臨床教科教育学会2018年度(第17回)全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Teacher Education and Training in Japan
3. 学会等名 Expert Conference on International Teacher Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 School Management from the View of Teacher 's Professional Community
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto ,Bruce Lander, Tomoko Tamura
2. 発表標題 Lesson Study and Curriculum Management in Japan -Focusing on Action Research
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 倉本哲男
2. 発表標題 Service-Learningにおける市民教育論(Citizenship Education)に関する一考察
3. 学会等名 第30回アメリカ教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 倉本哲男
2. 発表標題 アメリカにおける博士課程Ed.D.カリキュラム・指導方法論からの示唆
3. 学会等名 学校改善学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮下 治
2. 発表標題 理科教職課程履修学生の教職課程に対する意識に関する研究
3. 学会等名 臨床教科教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮下 治, 倉本哲男
2. 発表標題 教職課程履修学部生と教職大学院学部直進生の意識に関する調査研究 - 開放制の教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発を目指して -
3. 学会等名 日本カリキュラム学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮下 治
2. 発表標題 開放制における理科教職課程履修学生の意識に関する研究
3. 学会等名 日本理科教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮下 治
2. 発表標題 理科教職課程履修学生と教職大学院学部直進生の意識調査研究
3. 学会等名 日本地学教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮下 治
2. 発表標題 開放制の教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発に向けた基礎研究
3. 学会等名 臨床教科教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Action Research and Knowledge Management
3. 学会等名 International Post Graduate Research Forum Hong Kong university of Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto ,Eric C. K. Cheng
2. 発表標題 Lesson study and Knowledge Management
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (WALS) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉本哲男
2. 発表標題 アメリカにおける博士課程Ed.D.カリキュラム・指導方法論からの示唆
3. 学会等名 アメリカ教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Lesson Study and Curriculum Management in Japan
3. 学会等名 Focusing on Action Research (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto & Christine Kuramoto
2. 発表標題 Service-Learning in Nicaragua
3. 学会等名 International Service-Learning conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto
2. 発表標題 Lesson Study and Curriculum Management in Japan
3. 学会等名 National Institute of Education in Cambodia (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tetsuo Kuramoto ,Eric C. K. Cheng
2. 発表標題 Symposium, Lesson study and Knowledge Management
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (WALS) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古谷美紅里, 岩崎 藍, 宮下 治
2. 発表標題 中学校英語教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
3. 学会等名 臨床教科教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有賀友美・宮下 治
2. 発表標題 英語教育における円滑な小中接続のあり方の研究 - ラウンド制度と「話し合い活動」を用いて -
3. 学会等名 臨床教科教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有賀友美・宮下 治
2. 発表標題 英語教育における「教え合い」の効果に関する研究 - 教科書の内容理解を英語によるコミュニケーションにつなげる授業 -
3. 学会等名 臨床教科教育学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 宮下 治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 デザインエッグ株式会社	5. 総ページ数 240ページ
3. 書名 実践 理科授業論 - 手作り授業の魅力とカリキュラム・マネジメント -	

1. 著者名 倉本哲男	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ふくろう出版	5. 総ページ数 345ページ
3. 書名 アメリカにおけるカリキュラムマネジメントの研究-Service-Learningの視点から- (修正版)	

1. 著者名 齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大学図書出版	5. 総ページ数 170ページ
3. 書名 教育課程論 カリキュラムマネジメント入門	

1. 著者名 Tetsuo Kuramoto & Associates	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ふくろう出版	5. 総ページ数 270ページ
3. 書名 Lesson Study and Curriculum Management in Japan - Focusing on Action Research -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

順天堂グローバル教養論集
<http://www.juntendo.ac.jp/ila/department/research.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	倉本 哲男 (KURAMOTO Tetsuo) (30404114)	横浜国立大学・教育学部・教授 (12701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------